

2016年 9 月25日 実施

平成28年度（第55回）
情 報 処 理 検 定 試 験
〈プログラミング部門〉
第 1 級 試 験 問 題

注 意 事 項

1. 監督者の指示があるまで，試験問題に手を触れないでください。
2. 試験問題は 9 ページあります。
3. 解答はすべて解答用紙に記入します。
4. 【1】 【2】 【3】 【4】 【5】 【6】 は共通問題です。
5. 【7】 の問題は J a v a ・ マクロ言語のいずれか一つを選択し，解答用紙の選択言語を ☐ で囲んでください。
6. 電卓などの計算用具は使用できません。
7. 筆記用具などの物品の貸借はできません。
8. 問題用紙の回収については監督者の指示にしたがってください。
9. 制限時間は60分です。

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

1. データ通信の際、データの暗号化と復号に同じ鍵を使用する暗号方式。
2. 停電などの障害が発生した際、コンピュータに電力を一定時間供給する装置。
3. ネットワークにおいて、クライアントが電子メールを宛先に送信する際に用いられるプロトコル。
4. ハードウェアやソフトウェアに障害が発生した際の原因調査などのために用いられ、コンピュータシステムの動作状況を記録したもの。
5. 実際の業務を想定したテストデータを用いて、ユーザが求める処理能力を満たしているかを測定するテスト。

ア. 性能テスト	イ. アクセスログ	ウ. 共通鍵暗号方式
エ. POP	オ. NAS	カ. MTTR
キ. UPS	ク. 機能テスト	ケ. システムログ
コ. 公開鍵暗号方式	サ. SMTP	シ. DNS

- ア. 論理演算により、ＩＰアドレスからネットワークアドレスとホストアドレスを識別するための値。
- イ. システム開発において、目的を明確にして要求される項目を調査・分析・整理する工程。
- ウ. ネットワーク上において、送信先アドレスなどの情報を検査して、データを通過させるかどうかを判断するセキュリティ機能。
- エ. コンピュータをネットワークに接続する際、ＩＰアドレスなどを自動的に割り当てるために用いるサーバ。
- オ. 電子商取引などでやり取りする情報を暗号化し、インターネット上で安全に送受信するためのプロトコル。
- カ. ブラウザからの要求に応じ、Ｗｅｂサーバにあるプログラムを実行させて処理するためのしくみ。
- キ. システム開発において、要件定義に基づき入出力画面や帳票などを利用者側の視点から設計する工程。
- ク. 個々のネットワーク機器を識別するために、製造時に割り振られた各機器固有のアドレス。
- ケ. フラッシュメモリを用いることにより、省電力で衝撃や振動に強い特徴を持つ、ハードディスク装置の代用となる補助記憶装置。
- コ. ＬＡＮに接続されているコンピュータの代理として、インターネットへの接続などに用いるサーバ。

- 8ビットの2進数の01101011と00101110がある。この2つの数値の差を16進数で表したものの。
ア. 3 D イ. 4 5 ウ. 6 1
- 2つの入力「1」と「1」のときだけ「1」を出力する論理回路。
ア. O R回路 イ. X O R回路 ウ. A N D回路
- コンピュータ内部の数値を、上位ビットから符号部分、整数部分、小数部分の順に並べ、小数点の位置をあらかじめ決めて表現する形式。
ア. 浮動小数点形式 イ. 固定小数点形式 ウ. 2進化10進数
- システムに障害が発生した際に予備系のシステムに切り替えるなどして、正常な動作を維持する設計思想。
ア. フォールトトレラント イ. 完全性 ウ. M I P S
- 54M b p s の通信回線を利用して81MBのデータを転送する時間が15秒であった。この通信回線の伝送効率は何%か。なお、その他の外部要因は考えないものとする。
ア. 40% イ. 80% ウ. 100%

【 4 】 次の各問いに答えなさい。

問 1. 流れ図の説明を読んで、流れ図の(1)～(3)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

配列に記憶した数値に順位をつけてディスプレイに表示する。

処理条件

1. 配列 Kazu に数値を記憶する。なお、データ件数は n 件である。

配列

Kazu	(0)	(1)	～	($n - 2$)	($n - 1$)
	134	45	～	87	112

2. 配列 Jun を利用し、配列 Kazu の数値の降順に順位をつけて、Kazu と Jun の内容を表示する。なお、数値が同じ場合は同順位とする。

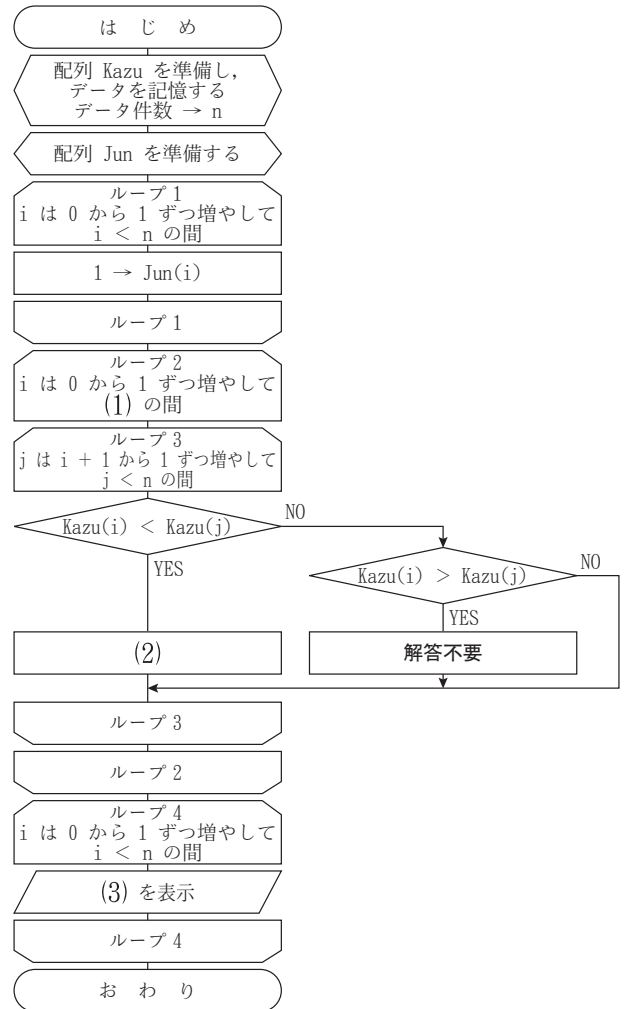
配列

Jun	(0)	(1)	～	($n - 2$)	($n - 1$)
			～		

解答群

- ア. Kazu(i), Jun(i)
 イ. $i > n - 1$
 ウ. Jun(j) + 1 $\rightarrow$ Jun(j)
 エ. $i < n - 1$
 オ. Jun(i) + 1 $\rightarrow$ Jun(i)
 カ. Kazu(n), Jun(n)

<流れ図>



問 2. 流れ図の説明を読んで、流れ図の(4)～(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

配列に記憶した文字列を並べ替えてディスプレイに表示する。

処理条件

1. 配列 Moji に文字列を記憶する。なお、データ件数は n 件である。

配列

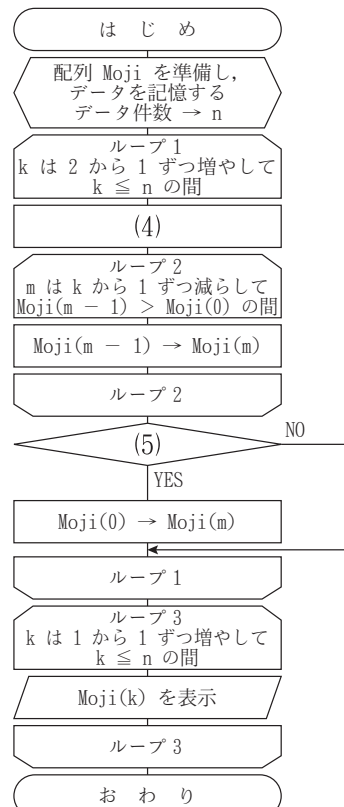
Moji	(0)	(1)	～	($n - 1$)	(n)
		Tokyo	～	Paris	Athens

2. 配列 Moji の文字列を昇順に並べ替える。
3. 並べ替えが終わったら、配列 Moji の内容を表示する。

解答群

- ア. $k = m$
 イ. Moji(k) $\rightarrow$ Moji(0)
 ウ. $k \neq m$
 エ. Moji(0) $\rightarrow$ Moji(k)

<流れ図>



【 5 】 流れ図の説明を読んで、流れ図の(1)～(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

金管楽器の修理依頼データを読み、金管楽器別修理代一覧をディスプレイに表示する。

入力データ

日付 (Hi)	楽器記号 (Gki)	修理コード (Sco)
××××	×～×	××

(第 1 図)

実行結果

(金管楽器別修理代一覧)				
(楽器名)	(修理種類)	(修理代計)	(修理代計比率(%))	(備考)
アルトホルン	ピストン調整	24,000	32	*
	へこみ直し	14,000	19	
	(修理代合計)	74,600		
トロンボーン	ロータリー調整	9,000	12	*
	へこみ直し	21,000	27	
	(修理代合計)	76,600		

(第 2 図)

処理条件

- 第 1 図のデータは、楽器記号の昇順に記録されている。
なお、楽器記号は ALTHR～TUB の 11 種類であり、修理コードは 1～12 である。

- 配列 Kigo に楽器記号を、配列 Mei に楽器名を、楽器記号の昇順に記憶する。なお、Kigo と Mei の添字は対応している。

配列

Kigo	(0)	(1)	～	(11)
		ALTHR	～	TUB

Mei	(0)	(1)	～	(11)
		アルトホルン	～	チューバ

- 配列 Syurui に修理種類を、配列 Dai に修理代を記憶する。
なお、Syurui と Dai の添字は修理コードと対応している。

配列

Syurui	(0)	(1)	～	(12)
		ピストン調整	～	へこみ直し

Dai	(0)	(1)	～	(12)
		3000	～	7000

- 第 1 図の入力データを読み、楽器が変わるごとに次の処理を行う。

- 1 行目に楽器名を表示する。
- 修理種類別の修理代計を配列 Daikei に求める。なお、Daikei(0) には修理代合計を求める。また、Daikei の添字は修理コードと対応している。

配列

Daikei	(0)	(1)	～	(12)
			～	
	(修理代合計)			

- 修理代計比率(%)を次の計算式で求め、第 2 図のように表示する。なお、修理代計が 0 の場合は表示しない。また、修理代計比率(%)が 20 以上の場合、備考に * を表示する。

修理代計比率(%) = 修理代計 × 100 ÷ 修理代合計

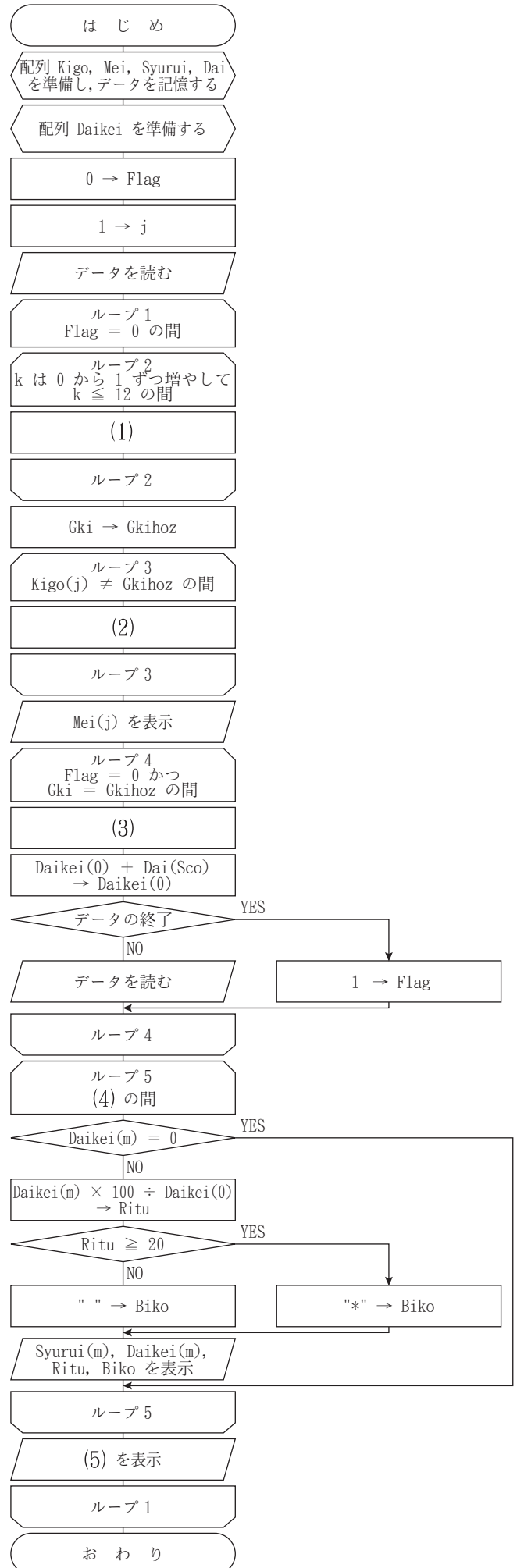
- 修理代合計を第 2 図のように表示する。

- データにエラーはないものとする。

解答群

- ア. Dai(k) → Daikei(k)
イ. j + 1 → j
ウ. Daikei(j) + Dai(j) → Daikei(j)
エ. m は 1 から 1 ずつ増やして m ≤ 12
オ. j + Sco → j
カ. Daikei(Sco) + Dai(Sco) → Daikei(Sco)
キ. Daikei(Sco)
ク. 0 → Daikei(k)
ケ. m は 1 から 1 ずつ増やして m ≤ 11
コ. Daikei(0)

<流れ図>



【6】 流れ図の説明を読んで、流れ図の(1)～(5)にあてはまる答えを解答群から選び、記号で答えなさい。

<流れ図の説明>

処理内容

全国の大規模小売店舗データを読み、都道府県別集計結果をディスプレイに表示する。

入力データ

企業コード (Kcode)	都道府県コード (Tcode)	店舗数 (Tsu)	売上金額(千万円) (Ukin)
×××	××	××	×～×

(第1図)

実行結果

(都道府県別集計結果)			
(都道府県名)	(合計店舗数)	(1店舗あたり売上金額(千万円))	(企業名:店舗数)
北海道	953	207	アニオン:32 ほか134社:921
青森県	239	213	サトー堂:9 東友:9 ほか103社:221
}	}	}	}
鹿児島県	292	215	アニオン:11 栄大:11 ほか116社:270
沖縄県	235	198	東友:7 ほか102社:228

(第2図)

処理条件

1. 配列 Kcd に企業コードを、配列 Kmei に企業名を、企業コードの昇順に記憶する。なお、企業は 500 社以下であり、Kcd と Kmei の添字は対応している。

配列

Kcd	Kmei
(0) 101	(0) アニオン
}	}
(50) 352	(50) ジョイ山高
}	}
(99)	(99)

2. 配列 Tmei に都道府県名を記憶する。なお、Tmei の添字は都道府県コードと対応している。

配列

Tmei	(0)	(1)	(2)	～	(46)	(47)
		北海道	青森県	～	鹿児島県	沖縄県

3. 第1図の入力データを読み、次の処理を行う。
 - ・ 企業コードをもとに配列 Kcd を探索し、配列 Tsyu に店舗数を記憶する。なお、500行目には合計店舗数を求める。また、Tsyuの行方向の添字はKcdの添字と、列方向の添字は都道府県コードと対応している。

配列

Tsyu	(0)	(1)	(2)	～	(46)	(47)
(0)				～		
}	}	}	}	}	}	}
(99)				～		
(500)				～		
(501)				～		

(合計店舗数)
(最大店舗数)

- ・ 配列 Usyu に売上金額(千万円)を集計する。なお、Usyu の添字は都道府県コードと対応している。

配列

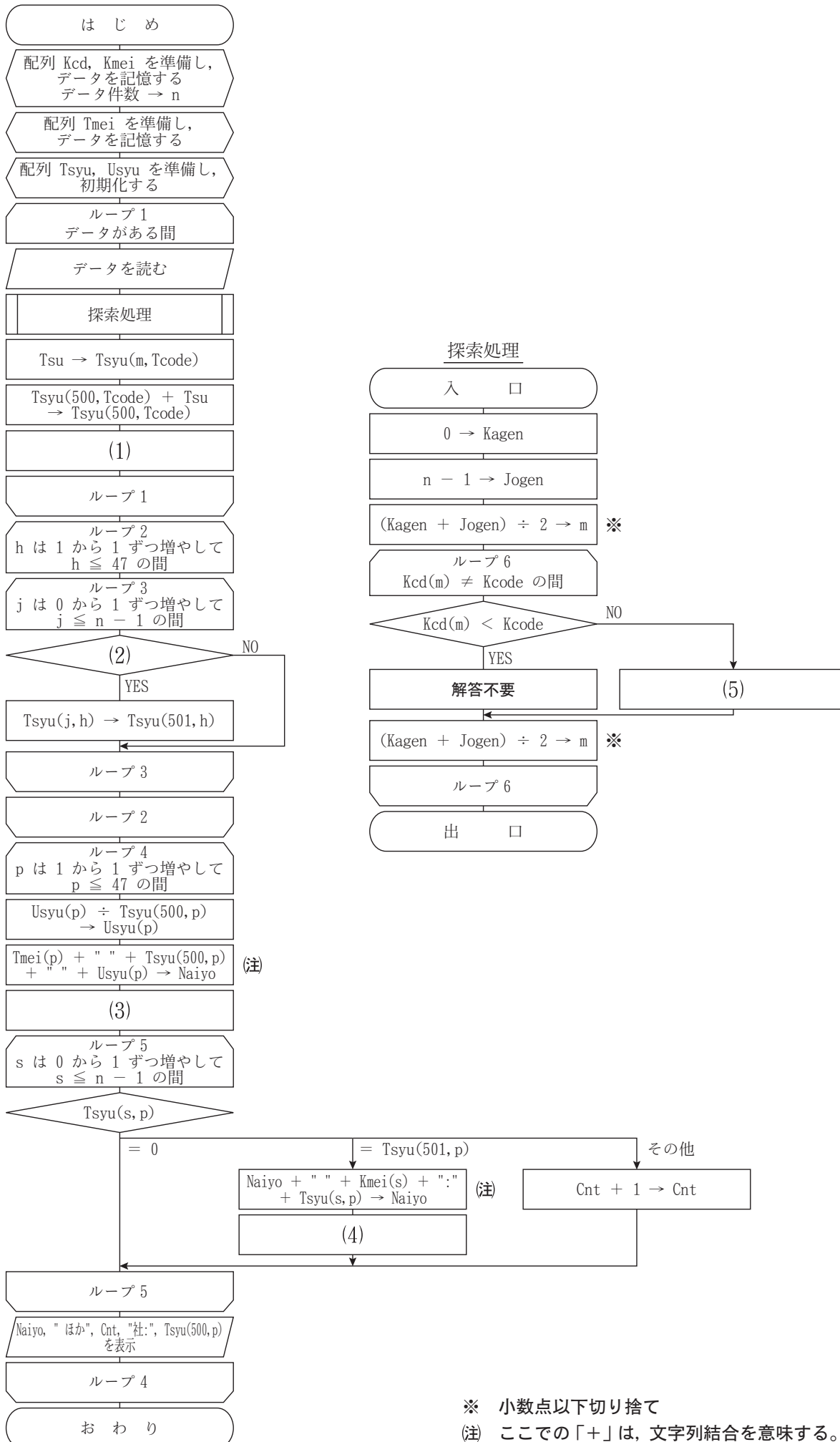
Usyu	(0)	(1)	(2)	～	(46)	(47)
				～		

4. 入力データが終了したら、都道府県ごとに配列 Tsyu の501行目に最大店舗数を求める。さらに、1店舗あたり売上金額(千万円)を求め、第2図のように表示する。なお、企業名:店舗数は、最大店舗数のすべての企業名と店舗数および、その他の企業数と店舗数を表示する。
5. データにエラーはないものとする。

解答群

- ア. $Tsyu(j, h) > Tsyu(501, h)$
 イ. $m + 1 \rightarrow Kagen$
 ウ. $Tsyu(500, p) - Tsyu(s, p) \rightarrow Tsyu(500, p)$
 エ. $0 \rightarrow Cnt$
 オ. $Tsyu(j, h) < Tsyu(501, h)$
 カ. $Tsyu(500, p) + Tsyu(s, p) \rightarrow Tsyu(500, p)$
 キ. $Usyu(Tcode) + Ukin \rightarrow Usyu(Tcode)$
 ク. $1 \rightarrow Cnt$
 ケ. $m - 1 \rightarrow Jogen$
 コ. $Usyu(Kcode) + Ukin \rightarrow Usyu(Kcode)$

< 流れ図 >



【7】 プログラムの説明を読んで、プログラムの(1)～(5)を答えなさい。

＜プログラムの説明＞

処理内容

写真撮影スタジオ会社の1か月分の営業データを読み、集計結果を表示する。

入力データ

営業データ（ファイル名：sellData.csv）

日付	スタジオコード	撮影メニューコード	申込種別
×～×	×	×	×

(第1図)

実行結果

スタジオコード(1～5)を入力して下さい。→5			
表参道店(特)			
撮影メニュー名	撮影料金計	店頭申込件数	Web申込件数
ベビー	3,220,000	28	18
}	}	}	}
結婚記念	980,000	14	0
合計	11,910,000	121	86
スタジオコード(1～5)を入力して下さい。→4			
丸の内店			
{			

(第2図)

処理条件

1. 配列 sName にスタジオ名を記憶する。なお、第1図のスタジオコードは1～5であり、sNameの添字と対応している。

配列

sName	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
		新宿本店	吉祥寺店	六本木店	丸の内店	表参道店

2. 配列 spFee に特殊撮影料金を記憶する。なお、特殊撮影料金が0の場合は一般スタジオを、0以外の場合は特殊撮影スタジオを表す。また、spFeeと配列 sNameの添字は対応している。

配列

spFee	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
		50000	0	0	0	30000

3. 特殊撮影料金が0の場合は一般スタジオを管理するStudioクラスを、0以外の場合は特殊撮影スタジオを管理するSpStudioクラスをインスタンス化し、配列 st に記憶する。なお、StudioクラスはSpStudioクラスのスーパークラスである。また、stと配列 spFeeの添字は対応している。

配列

st	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

4. 配列 mName に撮影メニュー名を、配列 mFee に撮影料金を記憶する。なお、mName(7)には合計を記憶する。また、第1図の撮影メニューコードは1～6であり、mName、mFeeの添字と対応している。

配列

mName	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
		ひな祭り	初節句	七五三前撮	成人祝い	結婚記念	ベビー	合計
mFee	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	
		20000	20000	20000	40000	40000	40000	

5. 第1図の営業データを読み、次の処理を行う。

- ・ 配列 tInfo に撮影料金計を求める。なお、tInfo(7)には合計を求める。さらに、特殊撮影スタジオの場合、特殊撮影料金を加算する。また、tInfoの添字は撮影メニューコードと対応している。

配列

tInfo	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)

(合計)

- ・ 配列 cInfo に申込件数を求める。なお、7列目には合計を求める。また、第1図の申込種別は0が店頭申込、1がWeb申込であり、cInfoの行方向の添字は申込種別と、列方向の添字は撮影メニューコードと対応している。

配列

cInfo	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	
(0)									(店頭申込件数)
(1)									(Web申込件数)

(合計)

6. データを読み終えたあと、キーボードからスタジオコードが入力されたら、配列 mName、tInfo、cInfoを撮影料金計の降順に並べ替え、第2図のようにディスプレイに表示する。
7. キーボードから0が入力されたら処理を終了する。

< J a v a プログラム >

```
//クラスStudio
public class Studio {
    private String[] mName = { "", "ひな祭り ", "初節句 ", "七五三前撮", "成人祝い ", "結婚記念 ", "ベビー ", "合計 " };
    private int[] mFee = { 0, 20000, 20000, 20000, 40000, 40000, 40000 };
    private int[] tInfo = new int[8];
    private int[] cInfo = new int[2][8];
    private String sName;
    public Studio(String sName) {
        this.sName = sName;
    }
    public int getTInfo(int mCode) {
        return tInfo[mCode];
    }
    public void setTInfo(int mCode, int tFee) {
        tInfo[mCode] = tFee;
    }
    public void calcTotal(int mCode, int group) {
        tInfo[mCode] += mFee[mCode];
        tInfo[7] += mFee[mCode];
        (1);
        cInfo[group][7] += 1;
    }
    public void dataSort() {
        int tmp;
        for(int m = 1; m < 6; m++) {
            tmp = m;
            for(int p = m + 1; p < 7; p++) {
                if(tInfo[p] > tInfo[tmp]) {
                    (2);
                }
            }
            if(m != tmp) {
                mName[0] = mName[m]; mName[m] = mName[tmp]; mName[tmp] = mName[0];
                tInfo[0] = tInfo[m]; tInfo[m] = tInfo[tmp]; tInfo[tmp] = tInfo[0];
                for(int r = 0; (3); r++) {
                    cInfo[r][0] = cInfo[r][m]; cInfo[r][m] = cInfo[r][tmp]; cInfo[r][tmp] = cInfo[r][0];
                }
            }
        }
    }
    public void description() {
        System.out.printf("%-10s\n撮影メニュー名 撮影料金 店頭申込件数 Web申込件数\n", sName);
        for(int t = 1; t < 8; t++) {
            System.out.printf("%-10s %-10d %-3d %-3d\n", mName[t], (4), cInfo[0][t], cInfo[1][t]);
        }
    }
}

//クラスSpStudio
public class SpStudio extends Studio {
    private int spFee;
    public SpStudio(String sName, int spFee) {
        super(sName + "(特)");
        this.spFee = spFee;
    }
    public void calcTotal(int mCode, int group) {
        super.calcTotal(mCode, group);
        setTInfo(mCode, getTInfo(mCode) + spFee);
        setTInfo(7, getTInfo(7) + spFee);
    }
}

//クラスSellAnalysis
import java.io.BufferedReader;

public class SellAnalysis {
    private static String[] sName = { "", "新宿本店", "吉祥寺店", "六本木店", "丸の内店", "表参道店" };
    private static int[] spFee = { 0, 50000, 0, 0, 0, 30000 };
    private static Studio[] st = new Studio[6];
    public static void main(String[] args) {
        for(int i = 1; i < sName.length; i++) {
            if(spFee[i] == 0) {
                (5) = new Studio(sName[i]);
            } else {
                解答不要 = new SpStudio(sName[i], spFee[i]);
            }
        }
        try {
            BufferedReader fileIn = new BufferedReader(new FileReader("sellData.csv"));
            String line;
            while((line = fileIn.readLine()) != null) {
                String[] str = line.split(",");
                int sCode = Integer.parseInt(str[1]);
                int mCode = Integer.parseInt(str[2]);
                int group = Integer.parseInt(str[3]);
                st[sCode].calcTotal(mCode, group);
            }
            fileIn.close();
        } catch(Exception e) {
            System.out.println("エラーが発生しました" + e);
        }
        Scanner keyboardIn = new Scanner(System.in);
        System.out.print("スタジオコード(1~5)を入力して下さい。→");
        int sCode = keyboardIn.nextInt();
        while(sCode != 0) {
            st[sCode].dataSort();
            st[sCode].description();
            System.out.print("スタジオコード(1~5)を入力して下さい。→");
            sCode = keyboardIn.nextInt();
        }
        keyboardIn.close();
    }
}
```


【7】 プログラムの説明を読んで、プログラムの(1)～(5)を答えなさい。

＜プログラムの説明＞

処理内容

自動販売機に関する商品データと1年分の販売データを読み、容器ごとの販売数集計結果を表示する。

入力データ

商品データ (ファイル名: syohin.csv)

商品コード	商品名	前期販売数合計
×××××	××～××	×××××

(第1図)

販売データ (ファイル名: hanbai.csv)

商品コード	販売年月日	販売数
×××××	××××××	××

(第2図)

ユーザーフォーム・実行結果

ペットボトル

(Label1)

販売数集計結果

次の容器

終了

商品名	1月	2月	～	11月	12月	今期販売数合計	前期との増減数
黒いウーロン茶	861	860	～	717	801	9,674	-460 ★
さくらの天然水	829	760	～	415	399	7,527	-1,953 ★
}	}	}	}	}	}	}	}
みんなで麦茶	341	296	～	448	390	6,371	425
}	}	}	}	}	}	}	}

(TextBox1)

(第3図)

処理条件

- 第1図の商品コードは、次の例のように構成されている。なお、容器番号は1 (ペットボトル), 2 (缶), 3 (ビン) の3種類である。また、商品は200種類以下とする。

例 T 0 0 1 2 → T 0 0 1 2
種別番号 容器番号

- 第2図の販売年月日は、次の例のように構成されている。

例 2 8 0 7 0 1 → 2 8 0 7 0 1
年 月 日

- ユーザーフォーム初期化時に、次の処理を行う。

- 配列 Ymei に容器名を記憶する。なお、Ymei の添字は容器番号と対応している。また、Ymei(0)は 全容器 を記憶する。

配列

Ymei	(0)	(1)	(2)	(3)
	全容器	ペットボトル	缶	ビン

- 第1図の商品データを読み、配列 Scode に商品コードを、配列 Smei に商品名を、配列 Zhan に前期販売数合計を記憶する。なお、Scode, Smei, Zhan の添字は対応している。

配列

Scode	Smei	Zhan
(0) W0011	(0) 富士天然水	(0) 3546
(1) W0021	(1) 海洋深層水プラス	(1) 5946
(2) W0031	(2) さくらの天然水	(2) 9480
}	}	}
(99)	(99)	(99)
(商品コード)	(商品名)	(前期販売数合計)

- 第2図の販売データを読み、商品コードをもとに配列 Scode を探索し、配列 Kei に販売数を月別に集計する。なお、Kei の0列目には今期販売数合計を求める。また、Kei の行方向の添字は Scode の添字と、列方向の添字は月と対応している。

配列

Kei	(0)	(1)	(2)	～	(11)	(12)
(0)				～		
(1)				～		
(2)				～		
}	}	}	}	}	}	}
(99)				～		
(今期販売数合計)	(1月)	(2月)	～	(11月)	(12月)	

- データを読み終えたあと、配列 Scode, Smei, Zhan, Kei を今期販売数合計の降順に並べ替える。
 - Label1 に容器番号が1の容器名を、TextBox1 にその販売数集計結果を、今期販売数合計の降順に第3図のように表示する。なお、前期との増減数は、今期販売数合計から前期販売数合計を引いた値とし、0未満の場合は★を表示する。
- 第3図の「次の容器」ボタンをクリックすると、Label1 と TextBox1 に次の容器名と販売数集計結果を表示する。なお、ペットボトルからビンまで順に表示した後は、全容器の販売数集計結果を表示する。

```
Option Explicit
Dim Ymei(3) As String, Scode(199) As String, Smei(199) As String, Zhan(199) As Long, Owari As Long, Kei(199, 12) As Long, Idx As Long

Private Sub UserForm_Initialize()
    Dim g As Long, Sco As String, Hnen As Long, Hsu As Long, h As Long, Tuki As Long, j As Long, Max As Long, k As Long, ~ m As Long
    Ymei(0) = "全容器": Ymei(1) = "ペットボトル": Ymei(2) = "缶": Ymei(3) = "ビン"
    Open ThisWorkbook.Path & "¥syohin.csv" For Input As #1
    Do While Not EOF(1)
        Input #1, Scode(g), Smei(g), Zhan(g)
        g = g + 1
    Loop
    Close #1
    Owari = g - 1
    Open ThisWorkbook.Path & "¥hanbai.csv" For Input As #2
    Do While Not EOF(2)
        Input #2, Sco, Hnen, Hsu
        h = 0
        Do While Scode(h) <> Sco
            h = h + 1
        Loop
        Tuki = Val(Mid(Hnen, 3, 2))
        (1)
        Kei(h, 0) = Kei(h, 0) + Hsu
    Loop
    Close #2
    For j = 0 To Owari - 1
        Max = j
        For k = j + 1 To Owari
            If Kei(k, 0) > Kei(Max, 0) Then
                (2)
            End If
        Next k
        If j <> Max Then
            work1 = Scode(j): Scode(j) = Scode(Max): Scode(Max) = work1
            work1 = Smei(j): Smei(j) = Smei(Max): Smei(Max) = work1
            work2 = Zhan(j): Zhan(j) = Zhan(Max): Zhan(Max) = work2
            For (3)
                work2 = Kei(j, m): Kei(j, m) = Kei(Max, m): Kei(Max, m) = work2
            Next m
        End If
    Next j
    Idx = 1
    Call Hyouji
End Sub

Private Sub 次の容器_Click()
    If Idx < 3 Then
        Idx = Idx + 1
    Else
        Idx = 0
    End If
    Call Hyouji
End Sub

Private Sub 終了_Click()
    End
End Sub

Private Sub Hyouji()
    Dim s As Long, Yban As Long, Zougen As Long, Hoshi As String, t As Long
    Label1.Caption = Ymei(Idx)
    TextBox1.Text = ""
    For s = 0 To Owari
        Yban = Val(Right(Scode(s), 1))
        If (4) Or Idx = 0 Then
            Zougen = Kei(s, 0) - Zhan(s)
            If Zougen < 0 Then
                Hoshi = "★"
            Else
                Hoshi = ""
            End If
            TextBox1.Text = TextBox1.Text & Smei(s)
        End If
        For t = 1 To 12
            TextBox1.Text = TextBox1.Text & " " & Format(Format((5), "#,##0"), "#####")
        Next t
        TextBox1.Text = TextBox1.Text & " " & Format(Format(Kei(s, 0), "###,##0"), "#####") & _
            " " & Format(Format(Zougen, "###,##0"), "#####") & _
            " " & Hoshi & Chr(13) & Chr(10)
    Next s
End Sub

(注) 使用例 Format(Format(1234.5, "###,##0.0"), "#####")
└─┬─┐「1,234.5」
└─┬─┐「 1,234.5」
```

(平成28年 9 月25日実施)

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

平成28年度（第55回）情報処理検定試験プログラミング部門 第1級
解 答 用 紙

【1】

1	2	3	4	5

【2】

1	2	3	4	5

【3】

1	2	3	4	5

小 計

【4】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

【5】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

【6】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)

小 計

..... [J a v a] ・ [マ ク ロ 言 語]

【7】

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	

試験場校名	受 験 番 号	選 択 言 語	
		J a v a	マ ク ロ 言 語

小 計

合 計

選択言語を で囲むこと

(平成28年 9 月25日実施)

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会

平成28年度（第55回）情報処理検定試験プログラミング部門 第1級
審 査 基 準

【1】

1	2	3	4	5
ウ	キ	サ	ケ	ア

各2点
計10点

【2】

1	2	3	4	5
イ	カ	コ	オ	ク

各2点
計10点

【3】

1	2	3	4	5
ア	ウ	イ	ア	イ

各2点
計10点

小 計
30

【4】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
エ	オ	ア	イ	ウ

各3点
計15点

【5】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
ク	イ	カ	エ	コ

各3点
計15点

【6】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
キ	ア	エ	ウ	ケ

各3点
計15点

小 計
45

..... [J a v a] ・ [マクロ言語]

[J a v a] (注) =, 演算子の前後の空白は問わない。

【7】

(1)	c I n f o [g r o u p] [m C o d e] + = 1
(2)	t m p = p
(3)	r < 2
(4)	t I n f o [t]
(5)	s t [i]

[マクロ言語] (注) 大文字, 小文字および=, 演算子の前後の空白は問わない。

【7】

(1)	K e i (h , T u k i) = K e i (h , T u k i) + H s u
(2)	M a x = k
(3)	m = 0 T o 1 2
(4)	Y b a n = I d x
(5)	K e i (s , t)

各5点 計25点

試験場校名	受 験 番 号	選 択 言 語		小 計	合 計
		J a v a	マクロ言語	25	100

選択言語を で囲むこと